NGO アジア防災・災害救援ネットワーク (ADRRN) プロジェクト報告

報告者:ムハマド・シャキール

背景

2005 年 10 月 8 日、破壊的な地震がパキスタンの NWFP 州、アザッド・ジャム、カシミールの 3 地域を襲った。18,000 名の子供を含む約 73,000 名が死亡し、400,153 の家屋が損壊、または深刻なダメージを受け、2,800 万の人々が家を失った。他にも、教育機関、保健機関、道路などすべての部門が地震によって甚大な被害を受けた。

復興

2005 年の地震の後、多くの国際 NGO、国連機関及びパキスタン軍によって人々の復興が始まった。彼らによってテント、食事が用意され、仮設住宅を建設する救助者たちも要請された。人々はテントで生活を始め、行政機関もまた、テントや仮設の建物で仕事を始めた。

住宅再建

パキスタン政府は、住宅再建に補償金が支払われることを告知し、政府は、補償金の分割 支払い方法を決定した。ノリッジセンター(バーグ県)は、2007年7月から復旧の進捗状 況と、問題を認識し人々のニーズを把握するための調査を行った。

地震による家屋の損壊状況

全壊 75% 部分壊 20% 被害なし 5%

住宅復興状況

復興完了 41% 第二ステージ(半分終了)56% まだ始まっていない 0%

復興完了 第二ステージ(半分終了) まだ始まっていない







今回の地震の特徴

地震による 87%

脆弱性による 13%

地震脆弱性





結果

金銭的余裕のある人々は、自分の家を建て直すことができていた。地震以前には、多くの人々はパキスタン国内や海外の異なる地域で働いていたが、地震の後、人々は家に戻り現在は無職になったため収入がない。そういった人々や低所得者は、政府の分割による補償によって住宅を再建させようとしている。彼らが住宅再建を終わらせることができない理由について、以下に述べる。

- 資金不足が、彼らが住宅再建を終わらせることができない一つの理由になっており、 未だに作業を開始できないところや、再建はしたものの脆弱なものを造る人々がいる
- 建設資材の価格が、地震後に上昇している
- 政府の被災者に対する補償金供与の遅れも理由の一つに挙げられる

県 (district) など地方政府の建物再建

2005 年 10 月の地震では、政府のの建物は大きなダメージを受け、全ての機関(教育、健康及び行政運営など)への被害は甚大であった。地震後、各行政機関はテントや仮設の建物で仕事を開始したが、22 ヶ月が経過しても、政府の仕事は仮設の建物やテントで行われていた。数週間前、パキスタンのラホール大学でバーグの復興マスタープランが紹介された。それは、再建がすぐに開始することを予期させるものだった。





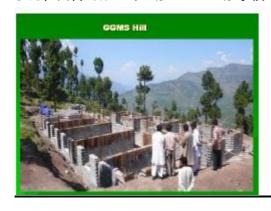


District Administration

Local Govt.

School

また、田舎ではいくつかの NGO が学校の再建を始めている。





問題とニーズ

以下に我々が調査を通じて見つけた、いくつかの共通の問題とニーズをあげる。

▶ 問題

- 住宅再建
- 水不足
- 失業
- 道路の荒廃
- 未熟な住民組織
- 適切な計画の欠乏
- > ニーズ
- 復興資金
- 水供給計画
- 基本的なインフラ建設
- 地元産業の促進
- 復興と将来の災害に備えた適切な計画

まとめ

2005年10月の地震後、復興が早急に行われなかった理由は多くある。

- ▶ 政府建物の再建に関しては、バーグ再建のマスタープランがラホール大学で紹介され、 復興が開始されようとしている。
- ▶ 人々の住宅再建に関しては、ほとんどの人々は政府からの補償に期待している。政府は人々に補償金を分割の方法でゆっくり与え、住民の住宅再建は政府の補償金に頼っている。
- ▶ 他に挙げられる問題は、地震後特に建築資材の価格が上昇することで、適切に価格を コントロールするシステムがない。